

1. 入 門

Introduction

【1】期 間 R2. 1. 20～R2. 1. 24

【2】担当教員（◎は主責任者）

コース責任者◎山形 真吾（教授、総合医療学）、木島庸貴（講師、総合医療学）

担当講座：総合医療学、大田総合医育成センター、臨床検査医学講座

【3】一般目標 [GIO (General Instructive Objective)]

入門コースでは、問診から始まる初期診療の組み立ての学習が中心となります。日常診療で多い症候に対して鑑別診断を挙げ、その仮説を修正しながら考えていく思考プロセスを身につけます。

1. 問診、身体所見、検査所見から診断に導く初期診療の組み立てを理解し、基本的診療計画を立案できる。
2. 問診の基本的なとり方を説明できる。
3. 臨床推論について説明できる。
4. 血液検査、尿検査の基準範囲の意義を理解し、測定誤差の要因を説明できる。
5. 日常診療で多い症候（発熱、咳、腹痛、胸痛）について鑑別診断を説明できる。
6. 疑問を調べる際の適切な方法を説明できる。
7. 論文を読むための基本的な型を理解する。
8. 疑問を調べる際の基本的な医学英語を理解できる。
9. 総合診療及び総合診療医の役割について説明できる。

【4】総合評価

筆記試験、中間発表、各グループの最終発表（プレゼンテーション）によって評価を行います。

【5】参考図書（購入の必要は必ずしもありません）

1. 一目でわかる病態生理（2001）、松野 一彦，メディカルサイエンスインターナショナル，3,132 円
2. 考える技術 臨床的思考を分析する 第3版，Scott D. C. Stern，竹本毅，7,560 円
3. 聞く技術 答えは患者の中にある 第2版，マーク・ヘンダーソン，山内 豊明，6,480 円
4. 異常値の出るメカニズム 第6版，河合 志，医学書院，6,480 円

5. Harrison's Principles of Internal Medicine

6. ティアニー先生の診断入門 第2版 ローレンス ティアニー 松村正巳
医学書院, 3,150 円

【6】局所解剖 なし

【7】入門コースの授業の中で準備が必要なもの

・1月21日火曜日“疑問の調べ方”担当：佐藤誠先生

ネット環境、ノートパソコン、ipad などネットに接続できる環境を準備しておいてください。授業中に Up to date を使用して、実際に疑問の調べ方を行います。
授業開始前に、予め授業中に使用する機器で無線 LAN を使用して up to date が開けるか確認しておいてください。

・症候編の講義“発熱、咳、腹痛、胸痛”

授業までに事前学習資料を配布します。予習が必要となります。

【8】講義及びグループワークの場所について

・基本的に授業は、臨床講義棟1階 臨床小講堂で行います。

筆記試験は、別の場所で行いますのでご注意ください。

1月24日 6コマ目 ”筆記試験” 臨床大講堂（臨床講義棟2階）

・チュートリアル室の使用について

グループディスカッションの時間は、チュートリアル室を使用することができます。